西洋道中膝栗毛

二編 上

へ14
1260
3

門へ 184
1260
3

萬國航海

西洋道中膝栗毛二編

東京　萬笈閣梓

假名垣魯文戲著
一蕙齋芳幾狂筆

藤井蔵書之印

西洋道中膝栗毛二編自序

歌人の居あぐら名所を知るハ。諸家の記行の道案内。方角抄ふ指くさの。槩略斯と悟れば。あたれば扶の手に圖會を披きゆをゝ蹈出す足曳の。やまと詞が孽の初旅麓の麈秘事並木の月毛。三鳥傳授歌枕。諸國を巡りて猿丸と。

化人麿も多うる中に。和歌を元来西洋の。地理も車情も考へぬむの。はくしふ盡を戯作活業も。文博士が著されうる。旅案内を栞として前ゑ此書の初編を綴り。彼蟹文字の横濱を。首途ゑ筆の杖突乃の字。次輯の趣向ふ草卧果。出帆遲滞を促され。沖の暗いゑ今更

航海夫退いを惟るゑ。銃炮だるゝのそゞ中ふも。虚うゝ出たる實ざるゝくい。方今の時好ゑ叶ひませぬ。文盲を助力る大福長者ゞ。飜譯書を路用として。乗組む蒸氣飛脚船。馴〻本國の肺色を捨置き。知らぬ異國で苦勞する。人真似猿の心こゝゝ。意馬の粟毛を礎として。居ゐゞら

海外万里の情を。穿つも聞多風土の境界。
滑稽稿と鶏ゞ啼。東訛りの横噬へ煙管の
口かゝ出ゝめめ。烟ふ等類き根無草上海
辺で碇を下し。先一服と毫を閣く

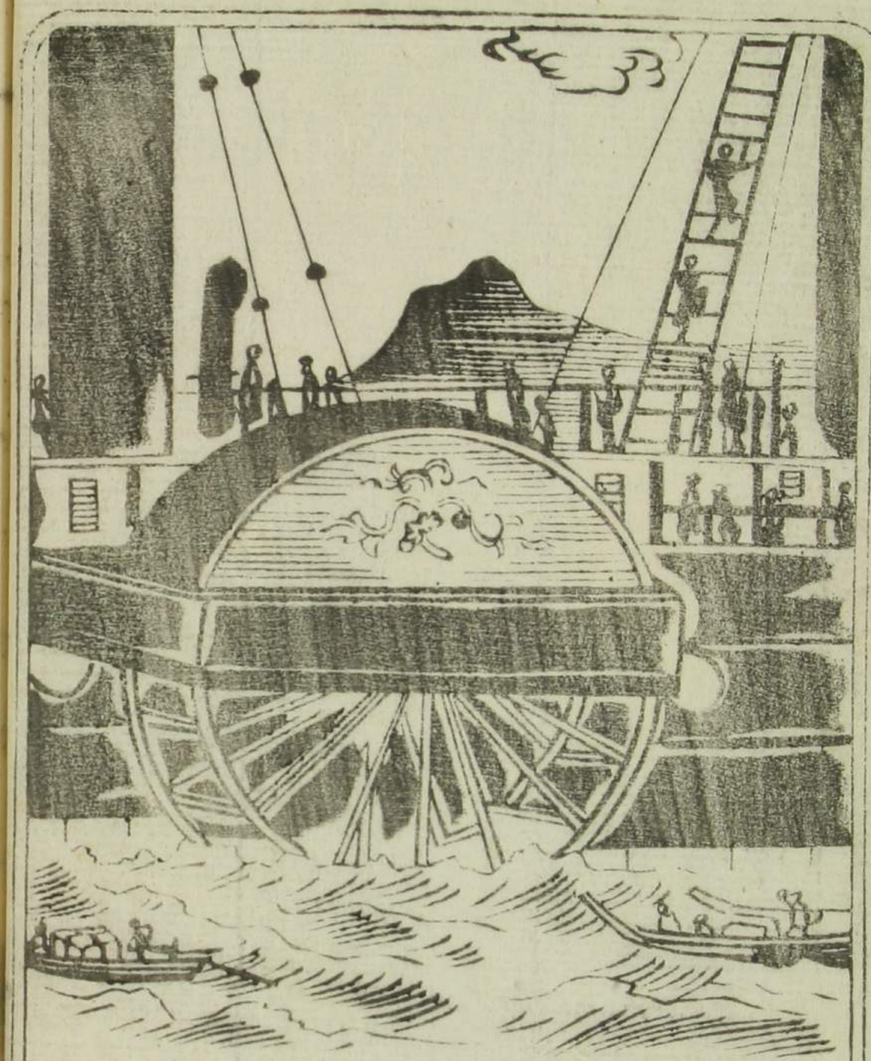
明治龍集庚午冬閏十月吉旦

氷湖堂　假名垣魯文戲題

凡例　附言

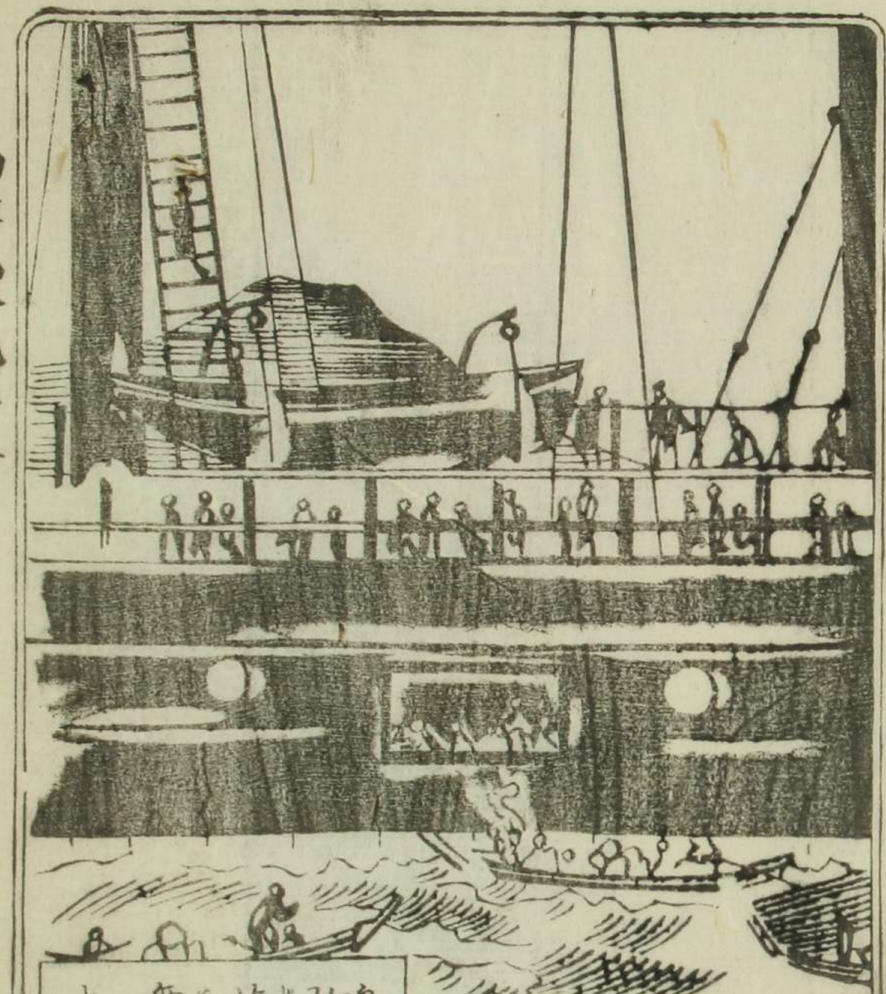
○當編ハ横濱の商個大腹屋廣蔵といへる人物を作り設けて彼ゞ英吉利の龍頭ある博覧會へ発向を以て大意とも因て上海香港ふ渡海歐羅巴ふ航海せるの船路ハ印度海飛脚船の通行を假てりのせり

○友人砂燕子先年佛蘭西の博覧會ふ至り彼国の風土大槩を得ゝり故ふ彼人の一夕話聊耳底ふ止めなるを柱礎としゝ此書を綴りけれど砂燕子目今東京ふ住せざ故ふ尋問の路を断遺憾甚ざし



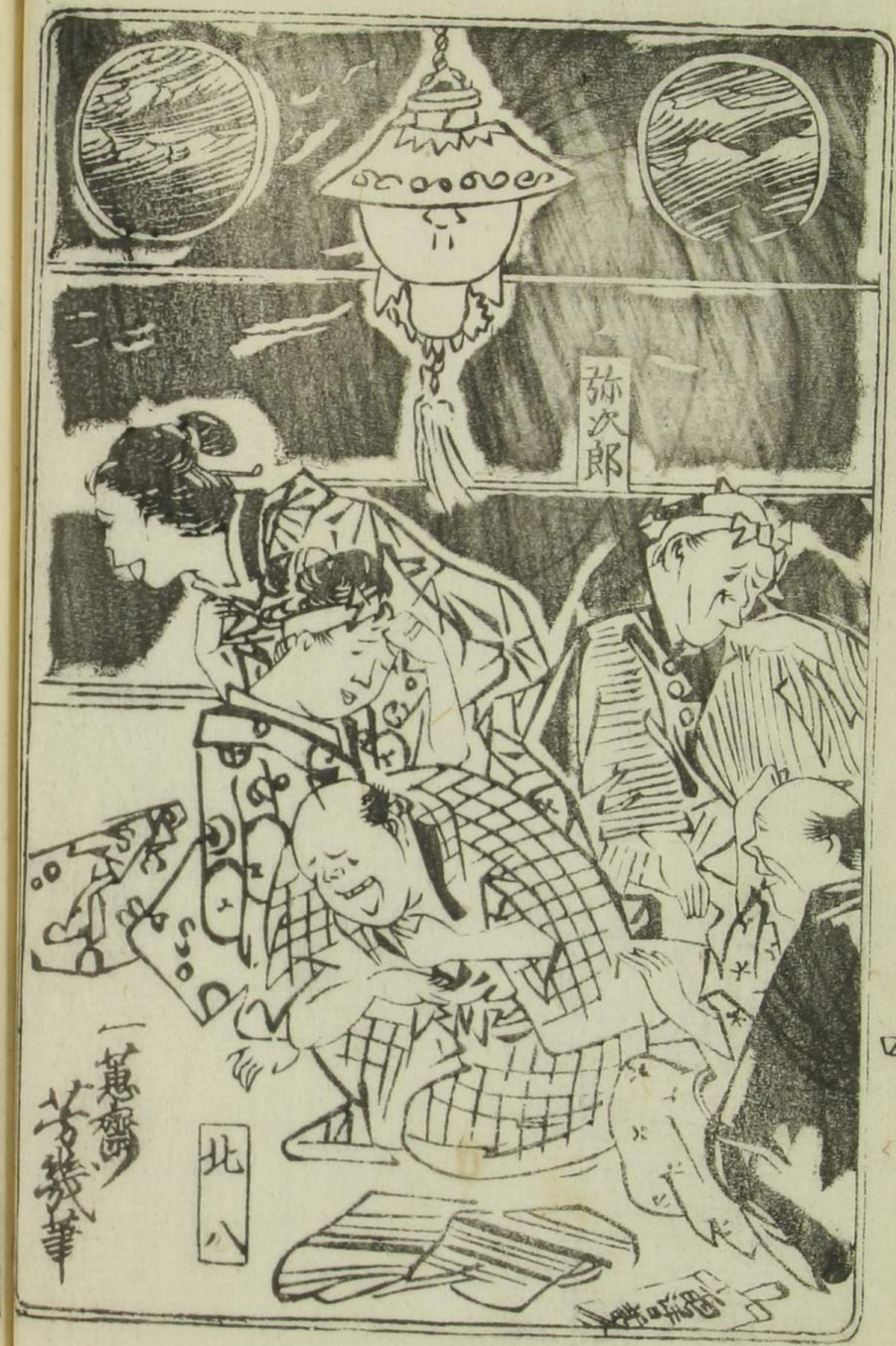
てんがくふかけしとこうのたる素海路たるふたるひくやるを

魯文



船を居て
見れば
陸もも
遠くの船
龍吟

弥次郎北八等
蒸氣飛脚船を
乗組て横濱沖
より出帆の圖



航海萬國西洋道中膝栗毛二編上

東京　假名垣魯文戯著

去程ハ弥次郎北八の二個の着ハ彼大阪屋廣兼ヨリ計途中でくあいるこは牡丹餅よりも最佳き英國航海の桐漆よ蜀産の雛妓もらいたゞき疾大船へ乗ッこまぐ〜そのあ欵酒樽ハ波荒の港合ゆゑ綿〜の列の上をもらもらあ〜しまるべ定めぬ仕業をも活るハ元来心氣の大阪屋巨細を吾迚我家に傳ひ次の日店清算分ある浪海

屋坤羊が許より撫合彼女房等の焼切をさつぱりつけて
近辺の債目の片も皆〻すま〻是より弥江郡北八を
家より留おき博覧舎へ赴く潤友を伴ひもよをし
年二月の中旬頃仕度潤ひ吉日を選び〻當港を
出帆の人数八名淡男女を合〻〻一号九十四五人印度
海の定花御彼蒸氣船の便宜を得〻〻横濱の地を踏よ
ゑ〻〻支那より支〻〻上海を目的ここに筆を
作着回海上通路都て船中の無恙なる西澤旅案

内ふ委しければ茲より贅せず航海の便宜を得んと
欲さば彼書を披き〻〻繁略を知る可し　此編は
唯児戯を要とす
新〻大彼屋廣義を大〻め弥江郡北八等が祭り
ちの異船は疾ことさるぐら翼風の如く首途の祝砲
喜さえ消ふ〻ふもくも年数の神を放を石炭の烟り
は雲より濃〻轍の迹りは濃纏を挽ようも似〻り蔚ふ
西哲奇巧の大船遠く眺れば鯨児の潮を吹ろと

疑ひ近く望めば泰山の潮出るかと怪まる周遊の
風穏なるも大洋に出れば逆波天を覆ひ海潮の雷き
心肝を寒からしむ彼大船廣麗八畳まで航海
恙なく船中の揺るも知るべきなれど弥次北八をたゞめとしその余の男女大槩八重も魂
も身に添はぬ一日二日八食事さへ喉に通らぬ形色青
ざめ花結として病つ起つ貧病の分ち更なく変生
る船の海上安全無事のこと祈りつゝ港に入を来ることて

在るうち順風ふきませて長崎湾なる神ふ岩て
猴をかゝ長ふて法器を鳴めんと一番ふ上陸し初め
て安堵の思ひをなせば弥次北八の婦人の者も船
ふ出をひらきんと船頭合せ
石崎の烟ふまつ一番合八
のゞやせく赤毛くせんちうの旅
弥次郎彩ゐん奥じけまべ北八もとりあへぬ
正直のかゝべふやどるひとゝを

神の出國よりもめぐりきの民
船をく大阪屋の一門い神戸ゟ乗込長崎屋を旅宿
と定めをく被船ゟ至るに夜いろのくと明るを待て
二三日逗留し再び船に乗組て船路はしく肥前ゟ
長崎へも立よりて又二三日を経たりしうべ國ゟの開
事全く調ひ乗合一回海船ゟ離れて遠く去るも平
き暴風の難もなく支那の領地の上海へ着くる祝
砲ドロ〳〵ドヲンヲ　ピーヒヒヒヒヒ

前の條神戸長崎の運送中種々の清穢あれ
ども海外異境の船活避なからんことを惟ひく
一足飛に支那の地ゟ渡海せり
柳支那の上海い我横濱より行程百里ゟ日路を
経て達し彼南京を距ること七十餘里と唱へるり揚
子江とゆ大河の口なる繁昌の港ゟして人の數二十万
西洋諸國の商賈船支那の小船も多く出入市中
ゟ城の様あり古歴三国の時異の孫權ゟ滝張ゟく

建安城と号るとぞ云れい案組の日ゝ人皆い祝祭の
合圖に應じ異人の案内ふ能つも上陸まるふ憑て
の人情何國とても異るこゝろなく男ゐい若ゝる幼き
を選びぞ皆ゝちやんゝけし場を女ゝぞものゝ物
教人法ゝ濃いゝぞろゝどやゝ 赤澤人 日本
人ト雲霧の如く附添ひ来り花媛ふむゝぞり従来
もふゝるゝぞり迎合ふゝ藝國の異人皆難を振花名
の人を逐過けゝゝおふゝ行徑ゝ日本の男女皆い

国ゐれ風風土家屋ゝをゝ行中ふ絶ゆ北八のゝゝ
も同くゝゝゝゝ 服部ドウダホハ天王寺墓ゞ石橋を
ふるゝゝゝ天窓をあやアゞゝゝゝゝゝの姿ゞあゝしい
とゝゝて伝ゝパアゝゝゝて機を出て舞やアゞるせいあゝ
ゝゝの 北 あゝゝゝ教ゝ知ゝゝ他國ゞヲヤゝゝ教ふゝゝゝゝ
孫ゝゝん女ゝの天窓のゞゐい禅宗婦人の掛ゝてゐる
如意のゝゝふ鬱ゞとゞゝゝを巻てゐらア 孫 ハゝアゝゝゝゝゝアゝ
先剃形ゞ異ゝゝゝ飛脚をつゝて郷のけふひゝゝゝゝ

おちゑ
弥次郎
北八
ひろ吉

宿屋の夫婦

つる時こんあふあるこのごとくあくるく教へこれぶらふ
北
あらアさろもとり音ごつるあんごヨイ〳〵一すこあ場
至の女房とえくるくあるまきる年場ぶこえくるるく弥
りつハ那ごドレ〳〵伊和ホヨ北工〳〵同の利ろ移くアレむふ
の鼻だらけあちゃん〳〵の傷ホ二十一二で色の濃黒イ
服の測ぶろくりして馬を見をがんの寝へ猪イつけさ
やろあ醤をしておいらの新をえて賜しそうホ矣ゆく
ある女ごハナ弥ハ〳〵まれろあるやアてめくの面と賜そうホ

又ろくあるンちやア移へあるあをえて矣らのご北ヲヤ
おいらのもあもどあろしてあるのろ弥どうしてあるごと
ろちやア移へ醤節ぶふぶり切きろく春心のつろこ猫
の尾尾ろあろしうけの山養をえるあろぶ也イヤ大矣ひ
あか矣ひト　ともふとらつが北八なまげぶしを
あるあごらあるきとありてロとぶ〕コウ弥ほうこんあめくハ
ふ人情あるめごぶ部つくあるあぶ教つくこれてもよさ
そうあのんご故仏のうちあらどうでもいぶ外國まで
きてヨ仲間ホ恥をかせるとハ余程軽毋しく移え

弓箭ゞ　孫　コレサモウ手前勝手ホウ立後ることもねくいエ
おらゞ醤のとゞろを巻ゝ　ゝ　ゝ　

伏見町の平次尾張へ止宿てゝ元の剃髪もたッさいな
よとしてくれ北八やらあくッく どうもるもンゝ高ゝ
阿蘭も稼くゝせふ若え世を張ッくゝゐる女郎い孤らぞ
仕舞ッてゐるといッてお茶挽を五人揚ゝ部分部朱の
ゐいあくゝぢにから出ることだらう剃おふやかけられめく
弥次郎めくも腹蓄ることをいふりんぢ遊びの席い五一
三ぢ おとゝバ義着ふ祝儀を出ゝ着ぢ一人りの臍
ざとッてへイ今晩い泊さんありがゝうと礼をいふやア一社

の天窓へかゝる理屈でもあげゝ女郎がてめとあらの合妓
ふ金山さん高窓さんすこまもせんョと云葉の礼を述る
からふやア剃あいあるじぐゝいもあくてあくい床ぢこそ
をつけることいふゝら一分ぐれくい余計もぐんでもいぢやア
ぬくうトの北八ギックリしてちと北八ぐゝ考えるふゝ
三度目のかゝり合を高やべりやアがつゝるいあくほしイ
とこぢしとふぢりしやもえ世のかしこ弥次郎
やくいあもまんひけもぢの寝いあ西ゝ
とゝもめくゝ書張くいゝるゝ弥次郎ぐあンゝ国中のふゝるせへ

人ハお唐茶やおゆ丸さんゆもあり平戸吉利名代でも
あけりやアのとまら稼くうら二合目ハ来るらあんどるも
庫ぺーをつのく此方からあととりぐとゆしるろけ
まくろそうでもあるめんせ（弥）あんとあぐてのるるうふふふ
イヤがうさらしゑ男ぐゼト（のハ北八とろのうちハ北）（義あれハ芝居ふきぢ）ハくくそん
ゑととも附の奥ぐト（ちとと色ゆくなぐひふらちとけめとより招も
生行あぐらふ弥次郎ハあぐらくハ首傾けく
そぢけたる鬱ぢしよりのもつれ髪

とけく猫でる中もよく系
ゑくく建安の城下たぐれる旅籠屋ハ至りしハ前よ
英人支那人より觸達ありしとくくく日本人の一群
を廣るとも名ぶしき程変ハ紫閃して情ぜるハ家
造りの異あるハいつも更あり庭前の横様あどさるあぐ
ら自國の唐画ふる柳園東寧の山水を目前ゑ
るぐ如く物として書あくぐるハるくくさるべ日本人の坐座
安らん為ふとくく摘ゑを取遥坐中ゑ置筵フラン

ケートを愛めづし酒飯も日本の器ふくらぐせり
はたらこぞやのあしい比のとる四十ぞろり毛けし坊主あり　亭主「今番雇
らうもの人物こまつく女ぞうのろくもはぢきくあるさ歩
歌歓天喜地水陸倶備。管待嘱付　女房「草酌少罪。
尊便横羅十字。トたちまづら孔雀をのべくあり　絵「アハ〳〵こ
らうの大勢ひかんてうらぐ　北「唐人の寮ぞろ小言ろ黄
蘗宗のお經の文句ろ称ッからぞぷり沼らぐ　「アハ〳〵
女房「ヲホ〳〵〳〵　絵「トキニ大腹色の呂邪今の男ッ唐人と
女ッ唐人のぬしるとい他とらふのぐ〜ぞ〜せう　唐「そうヨ

おまへも一向ろろらぬ〜ゲヨイ〜　通「沢郎さん　絵「い横イ五の
しろる男ふく〜ぶ変　高郎ふ通年を
やとひく〜きろるあり　彼奴ぞぶ長ぞるのいかのちんぐ子　通「ちゃ
サアノ亭主ダソレきんぞんげんぺそんそんぴいちろ。すい
ろぎのぷいろるんぐいぢろろう。とらろるのい今綾かあを
しろ〜ろろとびしい山海の孫味をとら孫いふ中つけ孫る
とらふとそサ女房の孫やべッるぐつまろちや。孫ろうとい。
つまんべん。あんろう孫ずろう。ドトらふのい孫ろし蘿蔔なもて
ぬしゆえぐろるとまほし山勝手ふ孫を見を蹴のぐして

通次郎
北八
東海道

弥次

おやさとるるらいほしトらみのぐげスト　きそそまるくいちちふ
どろと微をかくて大笑い
廣　ゝゝゝゝトント　國性爺の浮るりの二段目ときそそるむ
きやらちちんのうさらやアゝゝで尼かるめんごぜゝさら
やアゝゝとりやアお宴の藪いとれらどのくまくあらや
せうあらアあらア氣お出ッ舎せるのい素平だらら馬車や
蒸氣車ぎやアごめんごぜうゝ紅ぐいしろを通う
てくせ　孫　ぞかアらくありやアゝ近松が戯作ゝ種の稲くとと
ざん　北　イヤそうらいるるさんるを野い四百余冊とらる

孫　ぞ廣い國だうら千里ごれくる藪いかるかるれぬく
通　モシ北八さん流行をくれおそんる藪いらいぬくめんさ
北　ハゝア腔舎るといふおまやれうるさらアあ弟いぬいごる
孫　藪氣勤者そりやゆぶゝゝいどうぐゝゝト　れうちちちちのぐ
そのうちかンヤン
ハンビイルをそとあるとるさみのフラスコをのちちとび半開ぶるゆとう廣
あるびい日かく人の舎食ホまぐふさみでゝるさるをせ長ホ三ホあるうべる　サラゝゝ
ちんあぐ一杯ゆるべゝゝヲイお茶味らん　それハ同紙の女あり藪氣へ
ゆ茶やをせるさるのうるのうるのう

ワイ北ハおぎき[illegible]ゆめいく　ゆらぐいてれ女郎衆
ときめゆうせモシ通さん　いらぐ皆さんあらそく　北
一敵ぐどく　甘蔗く　[illegible]
[illegible]モシ皆さんどうでげス　皆からはー　湯をめらを[illegible]
かせるゆうを大さんぎをゆうゆうと日本人の成[illegible]の
うくとをそえせうけくゆらうぎやアあくうまエモシ[illegible]
いくぎやアありませんう　[illegible]ふとゆわくぶつうるとげ
ふつさんげ　北　ワイく　通沢さん　[illegible]あがら[illegible]て

三弦を一撥かりさんぐらんせくナ女中達よ弾うく
のらハア　[illegible]　コレサく　山國のやア　琵琶線や月琴弾り
でこ[illegible]の[illegible]ハあるめくせ通イヤ　近江[illegible]で南京が謡唄
をなるッたりぞく一や　[illegible]九を弾うり唄ッたり　[illegible]
からこ味線も　[illegible]くいるかも　[illegible]やせんきいとこや
せうう　通ハ[illegible]　通人目　[illegible]
こりやア豊後のうこせんでスヨ　[illegible]ぎやなりませんう
おぎやくさんおまるもんおまるもんお弾ゑもいナ　[illegible]

かひなナ　「まアこれアかちやさんかうサトとれようトテンテ
まあせんせんとうまくこの孫　「ヲイ〳〵赤面〳〵　ちがちようこと
ようかどをあけまるまるく
ひよつ〳〵。おはしちやんぐんのくぐるうかござり
まるまれどとでかりあぐらうさんてくあぐらのろらぬ鼠ぐ
強腰ホ中上ちてまつり拝唐人さあ分まも〳〵所
ちんどゆう文易法ぞんじたてまつりまもそうて
大鼓屋ホ題ひきく〳〵我〳〵ども今度大日本武
蔵の宮横濱渡り世界第一文明開化の墓所し

名人ちようほてホ味よ達〳〵ホもびきんあやむ
〳〵のさらやア〳〵と器清朝ふきくともきかねく
とも傷をホ赤やアがれそのあ強情さあ「下〳〵
チ、チンチリチツトとチチャン「アイ〳〵唐へ行みアら
ひまホヤ〳〵ひく〳〵ちから赤やのつぺウちんのアつ
へッアんのきらら〳〵「まうてとろりや番水の茶シヤボンで
みぐく仮の通香ホやまようやせぬ「ヲヤ〳〵そうでまろ
ちようきるホイまたきるホイト大さらぐとありらぐれもうくまたく
そのちんまたくれちびしをぐろうまつ

[illegible]

大日本神國のお嬢人さまがつぶお酒をめ〜まごいて
ふ出あそばせおぞ〜死る迄く泥醉を醉迄こわア
がつく失敬死がどつけへそっけへきれ一すも言せねへ
ぞサアころちへ遠へく西でも言ろらやるとぬっちわア
ぶらさぶつる豚の尻尾を引ぱってもむぞ〜ひよろ〜まる
[illegible]

[illegible]

赤赤子をぶちやアがつてるサアがつてんちねへ〜〜〜
〜ふこびひろ〜〜〜

ちくやうらうそくをたてまつる（孫）はるかのうへにてうらうをあさつてはウンしくらゆきくゝあるのこまるらをまあるやとゝふるのあどろろたゝやゝ夢くをあとしてあるとしてあるかゝをとゞしてはろくのけもろ蓋をゝ元夢をゝてあるあるろうのゆうをもふゝあるゝいあどろろたゝ

（北）ヲゝイかちやゝさんゝ

あゝゝ夢をもろうろかはるとゝいゝゝろ（コリヤア大変ゞヨ通さ）

んゝはろろらかさゝくかもゞば（通）ヲゝゝそんゝゝそろちやアいろ

ねゝゝ夢ゝゝ（アレサ）夢をもるのゞゝ子ゝとゝとゝゞゝ子（通）

あるゝゝあゝさんゝあゝ如の夢やゝくをあもものあゝふゝあゝをゝゝゝんゞ

そりやかゝゞヤアウントナ（北）ヲイゝゝ（孫）ほゝさんゝあゝゝ夢

のまゝをゝるのゞ大変をやゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（孫）アイタゝゝゝ（北）

八やおいへんゞゝゝ（北）ぶゝゝゝゝ（孫）ぶゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

北八
西の洋行 ゆきの理
波志津きに
ちくらの旅も
わたき中代あ

弥次郎

まるごらの金五両ゞ銀走しることのゞ云アイタ〳〵（北十）
方もねく自分ゞ分ふつけく ふんどしへくるんで大切
ほしう、あくりのを蔵もそやうがあるりのうよくうこして
えねくたのとあでもあうりやアちねくう（注）「ヨツト」出るう
でる銀の骨をぶるうもれ金五もびうこうしうこと
えくて上の方へ絶上ッうこのゞうやうくえく綱まうる
のでまゞ一ト安堵ハまうゞやうも銀ゞアイタ〳〵「ヨイと」
弥吹ゞどうしうとうくのゞあるくゞ仕出しうるゞうら

自分のからゞをいうめるのい仕出ゞねくゞかちやこの
横ッ板を踏上るのゞ銀を發して半死半生ダその上一
杯盤やガラスをぶちこ見しうり座敷中を泡ゞうらけ
しう償金をいうらゞうられうる者れやアちねく（モウ 既後）
らふ前よ酒ハ呑せねくヨトくぎをされてのあまそのうのもうあたそ
あまりうんどうつきしゞ大きふもとげるおちやをれたるくるやうく
たうくあとを片付たり 北八ハ弥次郎の面目ゞあげよ傷みまく
みねるをうるとうるしく（北）「モシ」親方一番ううみやた

稽の毒物をすべかうゞの張陳る

破るガラスのむすびをとく

「アヽこりゃ弥次さもあんどうんどうらう名

ぶをよんどら羅の帳消ざ「ヲット」ありやを

からくとよ弟ふともなの糸や

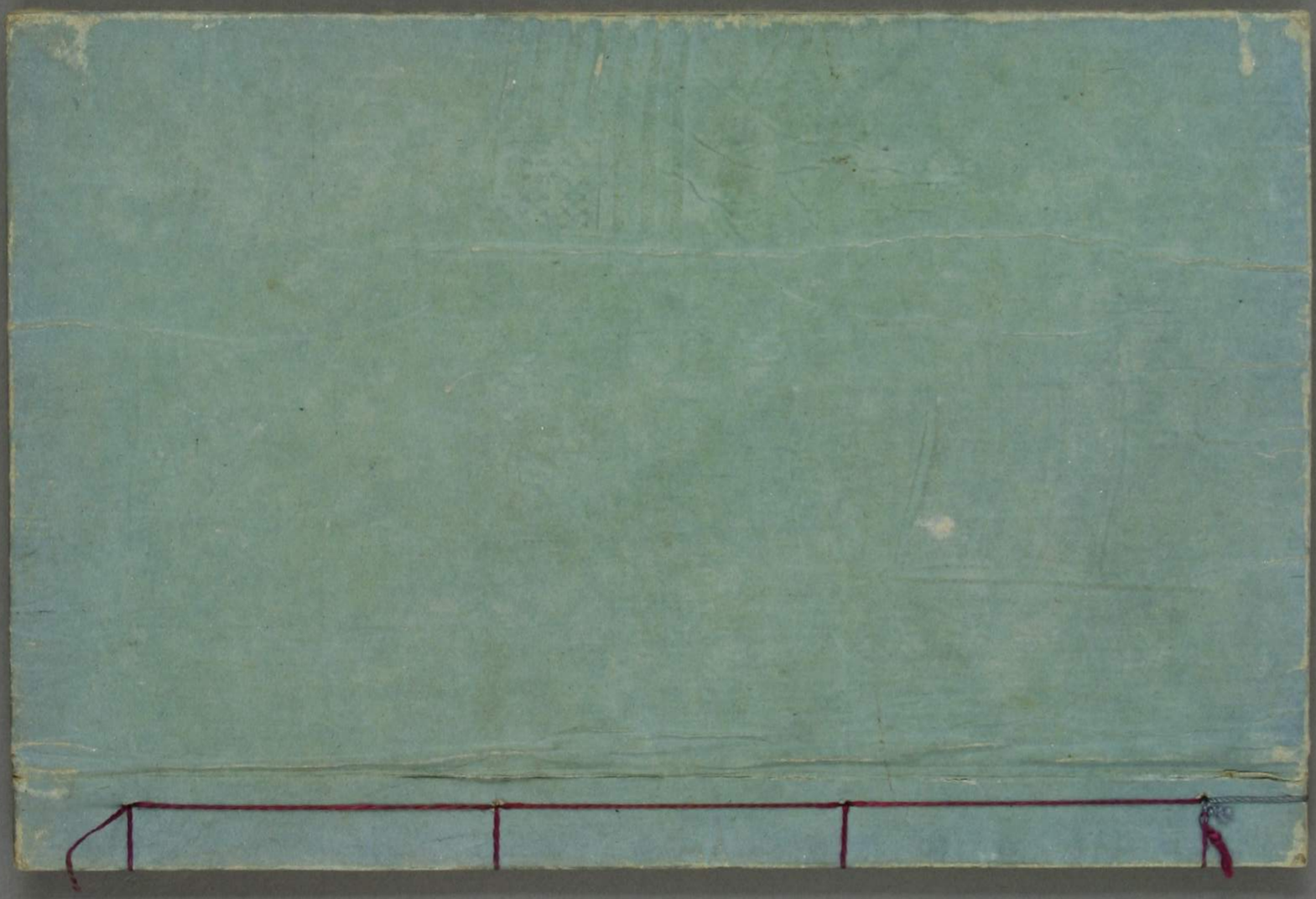
蹈かくめていうどきやせぬ国

ナント日お魂ぶらう「イヤ大あ者ごく」ト

ふくろが粗忽ふ

ひろ元のきぶん

かくやぶて食るもかるうければ

西洋道中膝栗毛二編上之巻

所郷よ入よけり